# 2026 年 8 月 20 日(木) 第 1 回萩市産業戦略本部会議録

意見交換　「地域産業振興構想」に係る施策に対する評価・検証

本テーマに関して、萩市がこれまで実施した事業は別紙に掲載

## ① 基本方針Ⅰ　大地と海の恵みを未来へつなぎ、持続的で力強い農林水産業を推進する

【農業について】

- 新規就農者の相談者数が年々減少しており、農業人材確保の面で厳しい状況が続いています。事業者でも萩市の施策や事業を紹介等し、農業従事者が少しでも増えるように、協力していきたいと思います。
- 新規就農を1から始めることは、ハードルが高いと思っています。新規就農に関わるスタートアップ応援事業では、独立してから５年間10万円の補助制度がありますが、農業施設を1から整理していくとやはりお金もかかります。10 万円の補助でできる範囲を考えますと、いろんな品目を少量作って、例えば萩マルシェなどを利用して、地産地消という形で売っていくことも一つの方法なのかなと思います。
- 農業・漁業の分野は、萩の飲食店にとっても生命線です。そこに携わる人、若い人が増えていくことが飲食店にとっても重要です。
- 農業に関して、どれだけやれば、どれだけ儲かるのかということが、よく分からないのではと思います。「農業でこれだけ儲けている人がいるよ」という方が出てくれば、後から続くようなこともあるのではと思います。
- 農業は、繁忙期もあればそうでない時期もあるかと思います。そうした時期に他の忙しい業種に時限的に従事していただくのも一つの方法と思います。

【漁業について】

- 漁業では、いかに魚価を上げていくかというのが大事だと思います。昔は、水産資源も豊富で、質より量という時代がありましたが、今は、温暖化による気候変動など漁業環境の変化により、水産資源がだんだん少なくなってきています。このため、今は資源管理型の漁業をせざるをえないようになっています。
- いかに品質の向上、鮮度管理を図っていくかというところで、「旬の地魚がおいしい

まち・萩推進事業」の活〆技術の習得というものがあります。この活〆技術の取り扱いがベースになれば、萩の魚の価値が、全国的にも認められてくるのではないかと思います。若い方は、いろいろやってみようと意欲を持っておられる方もあり、実際に、これを認定された漁業者が 15 名おられますが、他の漁業者と比べて単価が明らかに向上しています。こうした実績も出ていますので、さらにこれを進めていただければと思います。

- 水産関係では、「未利用部位」を活用していくと、例えば、関東や関西などの大きなマーケットで評価されることが多くなってきています。小売店でも、その環境に対する配慮をしっかりとされている企業が多くなっており、未利用部位を使った商品開発などを進めていくと、非常に採用されやすいことが近年多くなってきています。そういう商品づくりを進めていく必要もあるのかなと思います。

- 水産関係は厳しい状況が続いていると思いますが、漁獲量が多いものに付加価値を上げていく努力をしていく方が効率的であり、全体的な金額も膨れ上がると思います。

- 漁業資源が減っているという話を伺いましたが、鮮魚店や道の駅などでも意外と小さな魚なども販売されているのを見かけますので、消費者として気になることもあります。

【林業について】

- 林業に関して、萩は山の資源が豊富にあり、最近では植樹した木が成熟期を迎えています。これを上手に活用し、資源を循環しながら山を育てています。萩市で手厚い施策をしていただいて、現場の従事者も少しずつ増えてきてはおりますが、技術の習得には 5 年～7 年かかります。

- 現在の木材価格は、以前の 3 分の 1 程度になっており、コスト競争をしていく中で、材積をどんどん出していかないと収益が出ません。このため、どうしても新しい担い手に目を向ける時間が少なくなってきており、人材をどうやって育てていくかということが課題となっています。

- 林業は機械も使いますが、基本的に人間の手で行うしかありません。どうしても施業できる量が限られるため、民有林の施業が後手に回っている状況があり、今後、民間の山をどのように管理していくかが課題となっています。

- 山に関して里山の整備をしながら、災害が起きない山づくりを進めています。他県では未利用材の流木が水害の時に流れ出して家が大破するという事例もありました。山には未利用材がたくさんあり、未利用材を山から出してお金に変えていき、災害のない山づくりを目指しています。

- 建設業の方が林業にシフトして成功した事例を聞いたことがあります。建設業の方など他業種の方が林業に取り組める窓口の設置などあると面白いのではと思います。

【一次産業全般について】

- 最近はITにとって変わることができないブルーワーカーの仕事が重要視される面もあります。一次産業に携わる方が、しっかりと労力に対する収益を得られようになればいいなと思います。

- 一次産業とIT企業は親和性があると思います。例えばこれから気候変動のデータの蓄積など、そうしたところでITは活躍できるのではと思っています。

- 人材確保の面で、IT企業は今人材が来ていますが、良いところを見せるのが上手いのだと思います。第一次産業においてもメリットや、儲かっている姿が見えることによって、若い人の選択肢に入ってくるのではと思います。また、IT企業では福利厚生も充実しており、学生に対してはその部分のアピールも響くのではと思います。

- AIによって、IT人材も数年後には要らなくなってくる時代になるのではないかと言われています。また、いろんな職種がAIに変わり、本当のプロしかいらなくなる時代になると、生産人口は減りますが、一次産業、二次産業に従事する人が増えるのではないかという予想もあります。今後、どのように人材を活用していくか、仕事スキルをどのように上げていくかを考えて準備することが、今やることなのではないかと思います。

- 萩には一次産業をはじめ、魅力的な産業や、資源がたくさんあると感じます。一方で、その魅力がまだ都市部の方や消費者に、十分に伝わっていない部分もあるのではと思います。IT企業でも、都市部の方を萩に招き、実際に現場を見ていただくなど、生産者の方と交流する機会を作りたいと思います。また、最終的に人を動かすのは現地体験なのではと思います。現場の空気や、生産者の方の思いに触れていただくことで、新しい販路や、企業間の繋がりが生まれるきっかけになると思います。

- 農業は、個人で経営していくことが非常に難しい時代になってきているのではと思いますが、萩市では農業法人化はどの程度進んでいるのでしょうか。また、漁業では育てる漁業に変わってきていると言われますが、萩市では養殖の取組はどのような状況でしょうか。

  ⇒事務局回答

  法人の割合は地域によって異なり、３割から７割と幅があります。むつみ地域は個人農家が多く、田万川地域は法人化が進んでいます。国の方では法人に支援が手厚いという状況です。漁業については、稚魚を放流して魚を増やす取組は行っていますが、養殖の具体的な取組はありません。

## ② 基本方針Ⅴ　チャレンジマインドの醸成と、起業・創業、新分野への進出など市民や企業のチャレンジを支える基盤を構築する

- 萩市は、補助金の事業など様々な施策を行っていると認識しています。中小企業等事業拡大支援事業については、多くの方が利用していらっしゃるという状況ですので、もう少し予算の拡大があってもいいのかなと思います。

  ⇒事務局回答

  中小企業等事業拡大支援事業につきまして、昨年度は多くの事業者に利用いただきました。引き続き、事業拡大への支援を継続していきたいと考えています。

- 起業については、商工会議所への相談もありますし、商工会議所を通じて各金融機関に資金調達の相談もあります。特に女性の方の起業が多く、飲食業や美容院の創業の話もよく耳にします。事業者数を減らさないためには、創業をしっかり支援していくことが大事だと思います。創業するには、やはり投資額はかかります。補助もありますが、借り入れをしないとなかなか創業ができないというところもありますので、補助金額の上限については、少し検討いただければとも思います。

  ⇒事務局回答

  今年度から、起業・創業の支援事業とビジネスプランコンテストの事業を統合いたしまして、新たに起業・創業チャレンジ補助金という事業を実施しております。この事業では市内事業者が、地域課題を解決いただく事業に対して支援を行うもので、制度融資を受けられている企業に対し、設備投資等の 2 分の 1 を補助します。起業・創業に対する支援を厚くし、起業を促したいと考えております。

- 一番の問題は事業承継で、事業承継の支援センターもありますが、県の支援員の方に聞きますと、萩市では今、借金がなければご自分の代でやめてしまうところが多いと伺っています。萩市としては事業者が減ることが一番の問題だと思いますので、商工会議所や金融機関とも連携をして、何とか事業を継いでいく人を育てていく支援をしていかなければと思います。

  ⇒事務局回答

  事業継承はご指摘のとおり一番深刻な問題として捉えています。補助制度も用意しておりますが、なかなか手が上がらない状況です。事業承継の無料個別相談を重点的に行うなど、早い段階で支援ができるような体制を整えたいと考えています。

- 事業継承の問題は萩だけでなく全国的な問題と捉えています。どの業態であっても淘汰が起これば廃業される企業もあり、新しい企業も出てくるものでもあると思います。

- Uターンで萩に戻ってくるときに大きな決断をしましたが、事業継承の観点で言えば、やはり儲かる事業だということを見せることができないと難しいのかなと思います。

- 萩の移住者が増えているという話も聞きましたが、若い方がどういう思いで萩に来られたのかを知りたいなと思います。また、週休 2 日制や都市部並みの給与待遇など、福利厚生面はやはり重要だと思います。

- 創業・就業・移住チャレンジ応援事業は好調で、移住された方がよく利用されているという話を聞いています。この流れを維持していくために、「移住して創業」という流れをもっとPRして補助を手厚くされたら、まだまだ創業は増えていくのかなと思います。

- 中小企業等チャレンジ支援事業は、販路拡大で申請される方が多いようですが、どういう業種の方が利用されているのでしょうか。

  ⇒事務局回答

  萩焼の展示や物産展の参加で多く利用されています。また、海外へ日本酒や飲食関係の展示会参加での利用もありました。

- 景観条例によって、須佐・田万川地域でも看板の規制があり、もう少し規制を緩やかにしていただきたいという意見があります。

- 今は誰でも起業ができる時代になったと思います。若い方でも仕事の選択として就職ではなく、起業をして社長を目指すという選択もありなのではと思います。萩市の中にも目指すべき社長像みたいな方もいらっしゃると思いますので、そうした方を伝えるのも一つの方法と思います。

- 副業を活用するのは有効な手段だと思います。関係人口の方を活用するなど、そうした情報発信も必要なのではと思います。

- 起業された方は、3 年くらいでなかなか上手くいかなくなるという話を聞きます。萩で起業された方の状況はどうなのでしょうか。

  ⇒事務局回答

  比較的続いてる起業者が多いと聞いております。継続していていくために、市として支援できることは、積極的に行いたいと考えております。

- はぎポルトで事業継承の情報提供をしてみてはどうかと思います。移住して起業したいと思っている人の中には、「既にベースがあるものを引き継ぐ」という選択肢を見せることで、事業を継承してくれることもあるのではないかと思います。